信州大学 SHINSHU UNIVERSITY | 教育学部 附属長野小学校

６年１組

「私たちの正解」

谷浜鍛錬会・美と力　そして音楽会へ　～つながっていく私たちの歩み～

音楽会の学年合唱曲は運動会の「美と力」の最終演技で流れた「正解」。合奏は１組が「地球に乾杯」。２組が「VS～知覚と快楽の螺旋～」でした。「地球に乾杯」は、地球に生きることのすばらしさを伝える「地球に乾杯」という NHK 番組のメインテーマだった曲です。子どもたちはこの曲がもっている曲調からよさを受け取っています。Ｔさんは「最初は静かそうでも、中盤から６年１組全員で盛り上がる所に良さを感じる。」Ｓさんは「リラックスしているときに聞くのかと思うけど、ダイナミックに来るところに凄さを感じる。」というように、静けさから始まる曲調が徐々に壮大になっていくところに魅力を感じている子どもが多いように感じています。また、Ｓさんは「一組は元気があるクラスだと思うから、一組の元気の良さが伝わる曲だと思う。」と６年１組の色と重ねている一方で、Ｈ さんは「この曲は、6－１らしくないというか（いい意味で）そんな感じがします。いつもやっていた明るい曲ではないからどんな風に表現できるか楽しみ。」と６年１組らしくないと捉えているからこそ、生まれる楽しみ方ができそうだと捉えてもいます。

先日の体育館での合奏練習の途中で演奏が途切れてしまうことがありました。その時に聞こえてきた声は「先生、Ｓさんがいないからだよ」でした。小太鼓のＳさんのリズムが周囲の演奏のきっかけをつくっていたんだなと改めて気付かされました。「なるほど。合奏でも一人ひとりの役割があるし、お互いがみんなの音を聞き合うことで支え合っているんだな」と思ったわけですが、次の日の日記にＴさんは次のように書いていました。

> 今日、音楽の時間に、Ｓさんがいなくてできないというのはだめだと思って、頑張ってやり切れたのでよかったです。（Ｔさん）

Ｔさんの日記を読んで私はハッとしました。「お互いが支え合うという良さが生まれているんだな」なで止まっていた自分自身の考えとは少し違って、Ｔさんは「支え合う中でも自分自身で立っていくことを目指していた」と、さらに先を見ているのだなと感じました。子どもたちは表現者として、学級の一人として立ちながら、お互いの演奏によって支え合いながら、曲を奏でていきたいと願っているのだと感じました。

音楽会当日、私は指揮者として子ども達の歌声を真ん中で受け取れるという、なんとも幸せな時間を過ごしていました。当日の朝、これまでも毎朝行っていたように、学年で最後の合唱練習を行いました。指揮を始めて、子ども達から「これまで～」と歌声が届いた瞬間、これまでに感じたことがないエネルギーを感じたのです。おもわず「山本先生！山本先生！こっちきてよ。すごいから。」と指揮をしながら子ども達の後ろ側で低音を歌っていた山本先生をこちらに呼び寄せてしまいました。

指揮者として、「子ども達がもっている歌声を聴いてくださる方々にしっかりお届けできるような指揮をしなければ」と思い込んでいた私。当日、この歌声を聴くまでは、少なからずプレッシャーというか不安感があったのですが、この歌声を聴いた瞬間にそういったネガティブな気持ちが吹き飛びました。「あぁすごいな。」ただただ、そう思える子ども達の歌声。子ども達の歌声に包まれている。いや、包まれているというより、歌声が一人また一人とつながり、響き合い、エネルギーを生み出していく。そんな子ども達の歌声に支えられ、指揮者として表現させてもらっている私を感じた瞬間でした。

私たち６学年にしか歌えない「正解」があったんじゃないかなと気づかせる音楽会での「正解」でした。５年生との聴き合いの会では自信が持てず小さな声になってしまって、それを５年生に聞かせた時より自信を持って一人一人が「正解」に向き合えていたんじゃないかなと思います。あの時より自信を持って大きな声で５年生にもう一度聞かせられて良かったし、１～４年生のみんなにも、先生方にもそして何より保護者の方に聞かせられて本当に良かったです。最高な小学校生活最後の音楽会でした。（Ｔさん）

やりきった。終わったんだ。という達成感があります。それと同時に、もうこの信州大学教育学部附属小学校を卒業してしまうんだと思ったり、もう他に楽しい時間がないんだなとか思ったりします。少し悲しい気持ちもあります。（Ａさん）

単純に楽しかった!!合奏は、一番楽しんでやれたと思います。迫力をつけなきゃいけない曲だから真剣にやらなきゃいけないって思っていたけど、楽しすぎて微笑んじゃう感じでした。全校を一瞬で「地球に乾杯」の中に引き込めたと思います。６年１組のようで、そうじゃないような曲に出会えてここまで自分たちらしく仕上げられて良かったなと思います。合唱では、喉が痛いくらい歌えたしみんなが一つになれた気がしました。正解は６学年の大事な曲なので、やっぱり大切に歌いたいから、１年間目指してきたテーマでもある「心を１人に　１つに」ということを私は大事にしたくなりました。夢中で歌ってたから、心まで１人とか１つになれたかは分からないけど、正解の意味を１人でも多く伝えられたら良いなと思います。（Ｈさん）

「正解」は私たちにとって特別な曲です。中学生になっても大人になってもこの曲が聴こえてくれば、きっと附属長野小の６年生だったことを思い出すのではないでしょうか。「谷浜鍛錬会」「美と力」はもちろん、この６学年の仲間と過ごしたことが浮かんでくるとしたら、本当に素敵なことだなと思います。想いを込めた音楽は一生の宝物になるのではないかと、子ども達とつくってきた「正解」によって、そう感じずにはいられなくなっていました。